



### ●先生のおすすめ絵本●

#### さつまのおいも

(文) 中川 ひろたか (絵) 村上 康成 (出版社) 童心社

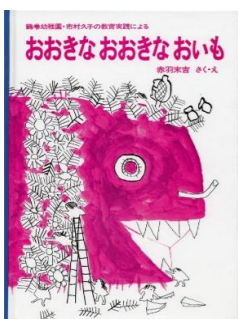


「おいもはつちのなかでくらしています」という一文から始まり、ごはんを食べたり、トイレに行ったり、お風呂に入ったりと、人間のような暮らしをしているお芋たち。そんなお芋たちがトレーニングをして体を鍛えて..お芋掘りに来た子どもたちといざ勝負！土の中のお芋たちと、地上の子どもたちが、お芋のツルで綱引き勝負をします。ひよこ組の子どもたちも、「うんしょ とこしょ！」とテンポの良い掛け声に合わせて、ツルを引っ張る真似っこをして参戦していました。綱引きに勝ったのは子どもたち、「スッポン！」と気持ちよくお芋が抜けました！採れたお芋で子どもたちは焼き芋大会。皆でほくほく甘くて美味しいお芋をたくさん食べました。すると、次々に「プーッ」「プーッ」とおならが始めた子どもたち。この展開にひよこ組の子どもたちは大笑い！絵本の台詞に「くっさーい！」と感情を乗せて言う場面もお気に入りです。ひよこ組の皆もお芋掘りを経験し、「お芋の本、もう一回読んで～！」と皆の大好きな一冊になりました！

<ひよこ組 K 先生>

#### おおきな おおきな おいも

(作・絵) 赤羽 末吉 (出版社) 福音館書店



ここはおおぞら幼稚園、楽しみにしていたいもほり遠足が雨で延期になってしまいました。残念がる子どもたちは大きな紙においもを絵の具で描き始めます。紙をどんどんつなげて大きな大きなおいもに。描けたらスコップですっぽん、綱引きでうんさか ほんさか どっこいしょ！抜けたおいもをヘリコプターで運び、プールに浮かべたり、恐竜いもザウルスに見立てて遊んだり。最後は天ぷらや焼き芋、大学芋にして食べたらお腹にガスがたまっておならで宇宙へ飛びあがりましたよ。たんぼぼ組のおいもほりの前日に読んで、大笑いした絵本です。「掘ってきたおいもをどんな料理にして食べようか」と楽しみに考えたり、「本当におならで宇宙に行けるの？」と想像しておかしくなったりと空想が広がる愉快的絵本です。ページをめくってもめくっても続いていく大きすぎるおいもに「まだ？まだまだ？」とワクワクが止まらない楽しい絵本です。

<たんぼぼ組 O 先生>



### 夏休みの読み聞かせカードより

#### めくって学べる からだのしくみ図鑑

(監修) 阿部 和厚 (出版社) Gakken

これまで何回も、〇〇から「体の中ってどうなってるの？」と聞かれており、人体の図鑑を買おうと思いましたが、難しすぎて断念していました。この本は大きな絵と、めくったら中がどうなっているのかが簡単に書かれており、本屋さんで2人で即買ったものです。が、骨を見て「こわい～」と言ったり、筋肉の絵を見て「〇〇もこうなってるの？」と聞いたり。とくに、出血した傷と、内出血の違いのページがお気に入りです。大人が読んでも面白く、本人もたまにパラパラとめくって読んでいます。

<こぼと組 Kさん>



#### ねないこだれだ

(作・絵) せな けいこ (出版社) 福音館書店



ねないこだれだはずっと前から家にあり時々読んでいました。夏休みに見ていた教育テレビの水木しげるの妖怪えほんをよく見て、「うちにもおぼけの絵本がある!!」とこの夏よく見ていました。「読んでー」と持ってくるのですが、声を低くして読むと「その声ダメだよ!!かわいいおぼけにして!!」と慌てて口をふさぎにくるのもおかしかったです。夜なかなか寝ないときに突然読むと(私は覚えているので)「やめて!!おぼけはバイバイだよ!!お屋に読んでよ!!」と目をぎゅゅとつむるのもなんと可愛くてついついやってしまいます(笑)

<つばめ組 はん>



おまかせコックさん (文) 竹下 文子 (絵) 鈴木 まちる (出版社) 金の聖社

読んだ時には楽しかったようで、何回も「読んで！」と言われました。絵本の心地良いリズム・フレーズが読んでいてもおもしろかったので、本人の中でもスッと入りやすかったのかなと思います。包丁で食べ物切る場面も沢山あり、自分でもたまに家で包丁を使ったりするので、「チーズ切ってみよう！」と色々な食材を切ってみようとした。かわいらしい恐竜が大きなサンドイッチを食べる姿をニコニコと楽しそうに見ていました。「おまかせコックさん」と言うのに「おまかせコップさん」となかなか言えずにいる我が子が可愛らしく印象に残った1冊でした！

<ひよこ組 Oさん>

#### うみへいったちいさなカニカニ (作) クリス・ホートン (出版社) BL出版

きょうはちいさなカニカニがはじめてうみへいく。「わーい！」「どんどん進んで「ぼくはどこへだっていけるんだ」と元気いっぱい。ところが岩場のはしについて海をみると、目をまるくしてひるんでしまいました。途中、おおきななみがやってきて「ばっしゃーん！」となるのですが、娘もカニカニと同じようにきゅっと身を縮めていました。はじめてすることには、とても勇気が要ります。少し臆病なところがある娘ですが、カニカニのようにちょっと勇気を出して一歩踏みだしてみれば、まだまだ君の知らない、楽しいことやワクワクすることがたくさんあるんだよ、と本を通して伝えられたらいいな、と思いました。

<すみれ組 Yさん>



#### にじいろのさかな

(作) マーカス・フィスター (出版社) 講談社



1年ほど前に読みきかせをしたことのある本でしたが、少し時間が空いたので感じ方が違うかなと思い、久しぶりに読みました。本の表紙や本の中のページにも魚のウロコとして、キラキラ素材の紙が使われていて、それだけで「キラキラきれいだね！」と嬉しそうでした。しかし読み進めていくと、にじいろのさかなは他のさかながウロコを欲しがっても分けてあげず、「あっちへ行け！」といじわるを言っていてひとりぼっち。この辺りから〇〇の顔が曇りはじめ、その後に出てくるタコの場面で「こわい！」と。タコはにじいろのさかなに助言をし、タコが悪者でないことが分かると安心したようで、「タコいい人だったね！」とニコニコでした。その後、にじいろのさかなは、自分のウロコを他のさかなに分けてあげ、みんなで仲良く遊べるようになると「みんなに分けてあげた方が、キレイなウロコが散らばってキレイだね！」と笑顔で言ってくれて、読んでいたこちらもちが温かくなりました。

<たんぼぼ組 Yさん>

#### ひねるとジャーとでる水はいったいどこからくるのだろう

(文・構成) 石塚 克彦 (絵) 寺本 建雄 (出版社) ぶんさときやらばん

水道の水があたり前のように出てくるのは水源にダムをつくらせたり、そのために山里のくらしが消えたり、水をきれいに守るため努力したり、と水の大切さを知る。「水がどれだけ大切かお水についてもっと知りたい」といつも話しながら書いてくれます。「もし水がなくなったら？もし水がなかったら？」日頃あたり前に出てくる蛇口からの水がなくなったら「大変なことになるね」と興味津々に沢山の質問をします。「お水を大切にしまきゃ」とお風呂中シャワーを止めながら入ったり、「手を洗う時出しっぱなしはダメだよ！」と注意したり、「お水を飲めるまで大変なんだ」とコップに入れる時よく言うようになりました。お水のあたり前は大人である私達も気を付けなきゃと思う本です。

この本は現在掲載できる表紙画像がありません。

<もも組 Kさん>

#### ともだちや

(作) 内田 麟太郎 (絵) 降矢 なな (出版社) 偕成社



本当はさびしがり屋のキツネが、1時間100円でともだちになってあげる「ともだちや」を始めたというお話です。読み聞かせ中は「それもう読んだ」などと言われてしまってもあまり興味を持ってもらえませんでした。読んでしばらくした後、〇〇があまりにもよくしゃべるので、思わず私が「おしゃべりや始めたか？1時間100円よ」と言うと、「何時間でもただ。毎日でもただです。」と絵本の中の表現を使って答えたのがとても面白かったです。2人で笑いました。

<ふじ組 Wさん>

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

### 編集後記

今年の夏は暑さが厳しかったですが、ようやく秋の気配を感じられるようになりました。清々しい秋晴れの中で運動会が開催できることを願うばかりですね。さて、今年度も絵本の部屋に新しい絵本がたくさん仲間入りしました。人気のシリーズや、絵本好きなふれーめんメンバーの皆さんが厳選してくれた絵本がズラリ。ユーモアたっぷりの面白い本も多く、元々読書家ではない私もついつい絵本に詳しくなってしまう今日この頃です。

また、秋祭りはふれーめん毎年恒例の古絵本市も開催します。親子で読書の秋を楽しんでみませんか？

<もも組 H>